

心配に殺される前に、心配を殺す Part 2
ピリピ人への手紙4章6節から7節
- Pastor.J.D.Farag 2019年3月10日（日）のメッセージ -

「ピリピ人への手紙4章6節から7節」です。可能であればお立ちになって、私が読む個所をつけてください。ご無理であれば座ったままでけっこうです。

使徒パウロがピリピの教会あてに手紙を書いています。6節です。

何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。（6節）

そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。（7節）

（ピリピ4章6節から7節）

いっしょに祈りましょう。

愛する天のお父さま。この時間を、あなただけがお出来になる方法で、聖霊で満たしてください。あなたが私たちの目を見開き、見えるようにしてください。あなたが、私たちの耳を聞こえるようにしてください。あなたが、私たちの思考に理解させるようにしてください。あなたが、私たちの心に今日ご用意してくださった御言葉を、私たちがともに学び、受け取れるようにしてください。

主よ。語りかけてください。あなたのしもべが聞いています。
イエスの名のもとに。
アーメン。

お座りください。ありがとうございます。

では、今日は先週からのシリーズのパート2です。『心配に殺される前に、心配を殺す Part 2』

この題名は、心配が、本当に文字通り私たちを殺す性質があることを強調するためではないということをご理解いただきたいと思います。

心配がストレスとなって、私たちの肉体にダメージを与えます。感謝なことに、使徒パウロが今日の聖句に書いていますが、心配、不安、そして恐れというものに対して、聖書的に”癒やす”ことを提供しています。

先に言わせていただきますが、重要であるので、どうかお聞きください。私は、自分自身を専門家だとか不安障害や鬱（うつ）に対するプロであるとかと言っているわけではありません。また、それに伴う多くの精神的な病についても同様です。

精神的障害が、非常にリアルに襲う時があると、私は強く思います。どういう形であれ、私が軽蔑しているのではないということをご理解ください。

ただ、私は自分の立場をわきまえながら、不安や心配に関して、神が個人的に私の人生の中で下さったことを、自分個人の経験から話し、共有します。

すでにみなさんに告白しましたが、今日、ここで前置きとして、再度告白します。これは私の人生の中で、神がずっと私に対処してくださっている領域です。私は”あらゆることについて”、心配になってしまう傾向があるのです。また、もし私が心配することがなくなれば、みなさんのために何か心配をすることがないかを、みなさんに聞くでしょう。

ある人が言った話を思い出します。

「私の代わりに私の心配をしてくれる人を、雇うことにしたんだ。私のすべての心配を取り除いてくれる人を。彼に年間10万ドルを支払うことにする」

すると、その友人が言った。

「え！ちょっと待てよ。自分の不安を取るために、だれかを雇って、年間10万ドルを支払うのだって??」

彼は「そうだよ！」と答えた。

友人は言いました。

「君は10万ドルも持っていないじゃないか！」

それに対して、彼は言いました。

「それは、彼らが心配することさ」

では…、神は、私の人生に偉大なことをなさいました。特に私の祈りの生活において。これを言うとき、私はみなさんに、大変オープンで率直です。私の人生の中で勝利するのが最も難しい領域は、心配・恐れ・不安です。

そう。BUT GOD/しかし神は、神にしかできない方法で、ずっと私に教えてくださっているのは、明確に、熱心に、感謝の心と感謝の態度をもって祈る方法です。そして私の祈り方、祈りの頻繁さに比例して、不安が消え去るのです。そのために、だれかに10万ドルを支払う必要はありません。

シンプルすぎるかもしれませんが、でも、「ヤコブの手紙5章16節」の後半を聞いてください。

義人の祈りは働くと、大きな力があります。（ヤコブ5章16b節）

言い換えれば、私たちが効果的に、明確に、熱心に祈るとき、大きな力があるということです。ところでこれは、クリスチャンを祈ることから遠ざけるために、敵があらゆることをしてでも阻止する主要な理由のひとつです。敵は、「祈りが決め手である」と知っています。

私は、主の元へ昇天されたチャック牧師の表現が大好きです。彼は、この戦いは1対1の戦いだとおっしゃっていました。だれかがナイフを取るまでは、素手の戦いである。ナイフを持っていない方がするのは、相手の手からナイフを奪い取ることです。戦い全体が変わりますよね。

これが、敵が私たちにすることです。つまり私たちがだれと戦うのか、だれと奮闘するのかであり、私たちの戦いは対人ではなく、血肉の戦いではないのです。

私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。（エペソ6章12節）

ですからサタンが、私たちに恐れを霊を送るのです。これを少し説明します。

彼が、これらの恐れ・不安の霊を私たちの思考に置き、私たちの”祈りのナイフ”で戦うなら、彼は、自分がすでに負けた敵となって逃げなければならないことを知っています。これがサタンの一番恐れることです。

彼は、”祈りが決め手”であると知っていて、これが今日の聖句で使徒パウロが言っていることではないですか？

何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。（ピリピ4章6節）

私たちは逆をいきますね？”何も思い煩わず、あらゆることを祈る代わりに、私たちは、”すべてに思い煩って、何も祈らない”。サタンはそれを知っています。それがクリスチャンの生活において、サタンが行っていることを行うのを、可能にしている理由です。

特に不安や心配になったときに、祈りの力について私が学んだことのひとつが、祈り/Prayerは、祈る人/Pray-er-を変える、です。

言葉遊びではありません。私たちが祈るとき、祈りが私たちを変えるのです。なぜなら、私たちの中の様相が変化するからです。それが、神はすでにご存じでありながら、”あなたがたの願い事を神に知っていただく”理由です。

これが、ある人たちにとっては問題で、混乱をきたすのです。

「ちょっと待って！神は、もうすでにご存じなら、なぜ神に頼む必要があるのか？」

分かっています。

「神はすべてをご存じですよ」

そうです。

「それならなぜ、すでに知られている私の願いを神に言う必要があるのか？神がすでにご存じなら、祈るポイントは何なのか？」

お～、それは神に知らせるためではなく、私たちが、”祈りの中で、はっきりと明言してより頼む必要”があるからです。ヤコブが言っているのは、

あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからです。（ヤコブ4章2b節）

つまり祈りをもって明言し、伝えることに何かがあるからです。それは、祈りが私たちの心と思考を新しく変えるからです。

はい。神は、すでにすべてをご存じです。しかし、私たちが神に願いを伝えることが、私たちの中で、すべてを変えるのです。

ある聖書教師が、こんなふうに言っているのを聞いたのですが、

「私たちが祈るのは、神にお知らせすることではなく、自分自身を神に従わせるためだ」

もう一度言います。『祈りは、祈る人を変える』祈ると、私たちの心と思考の中に変化が生じます。そうすると、どうなるのか。こういうふうに説明します。

私たちの願いを神に知らせ、それから、使徒ペテロが言っているように、私たちの心配事を主にゆだねると、問題というレンズを通して神を見るのではなく、神のレンズを通して、問題を見られるようになるのです。

たぶん、違った方法で言う必要がありますね。

自分が不安になり、心配になり、恐れを感じる時というのは、たいがい大きなストレス、不安、心配、恐れを引き起こしているその状況を見ます。それが、私が祈る時、自分はその大問題から目を離し、祈りの中で神にその問題を渡し、神を見ます。そして神のレンズを通して自分の問題を見ると、問題のすべてが突如、問題ではなくなります。

ポケットに25セントのコインがあります。ありますように…。25セントでは、いまの時代はあまり買い物できませんね。

では、この25セントを取り上げ、あ〜ライトがまぶしいですね。私の薄くなった頭に反射して、みなさんまぶしいでしょう。この25セントをスポットライトに向けて持ちます。スポットライトが完全に隠れるように持ちます。

このたとえを説明しましょう。25セントが、私に大きな負担とストレスを引き起こす問題で、それが、私の仕えている神という光を隠しています。ところが25セントを、あのスポットライトに重ねて置くと、サイズの、ほんの小さな一部でしかありません。

いいですか。これが敵がしようとする事なのです。敵は問題を持ち上げ、私たちが問題に気を取られるようにして私たちを消耗させ、私たちを問題に執着させて悩むようにさせます。そして私たちが、その、“大きな不安をもたらし、たえず増大する問題”というレンズを通して神を見るように仕向けます。

祈りが私たちを変え、私たちのその状況に対する見方を変えるもう一つの方法は、過去において神のご誠実さを思い出すことです。

こんなふうに考えます。

パウロが言うのは、“思い煩わない”ための基本である3つの面です。みなさんは、悩みたくないなら、まず祈る。そしてあらゆることすべてを神に感謝する。これが私が考えていることで、私たちがあらゆることに祈る時、神は私たちに過去において神がご忠実であったことを思い出させて下さいませ。

私たちが悩んでいた時、ストレスを抱えていた時、家賃をどうやって払おうかとか、これをどうすればいいか、あれをどうするべきか、などなど。これまで、いつだって神はご誠実でした。

みなさんがそれを考える時、「Thank/感謝する」という言葉は、「Think/考える」という言葉から来ていますから、みなさんがそれを考える時、私たちが感謝すべき、過去に神がしてくださったこと、特に恐れから救い出してくださったことを思い出すでしょうから。

質問させてください。私自身が不安や心配になった時に、必ず自分自身に問う質問です。

今まであったでしょうか？一度だってありましたか？

この質問を通して考えていただきたいのが、「神が、あなたを裏切ったことが一度だってありましたか？」

何人かの方は、かなり危険な状況であったのを、いま思い出していますね？”ブヨの眉毛”ほどの本当に小さな事まで。そうです。ブヨには眉毛があるのです。本当に土壇場で、もう終わりだと思った時に、神が即座に助けてくださる。しかも、神にしかできない方法で。

「神様、ありがとうございます。本当にありがとうございます。本当に」

ダビデを思います。神が過去に、どのように熊やライオンをダビデの手に渡されたのかを思い出しながら、いま、彼は大胆に信頼をもって、神を冒瀆する無割礼のペリシテ人を打ち破れると知っているのです。

聖書の聖句を通して、みなさんはこの偉大な神の人々（男性・女性）を見ているのです。ところで私は、彼らのことを「聖書の登場人物」とは言いません。たぶん、”預言アップデート”教義の時に、それを指摘するかもしれません。

私が彼らを「聖書の登場人物」と言わない理由は、それではまるで、おとぎ話やアニメ映画の登場人物のように聞こえるからです。なので私は、聖書の中の男性・女性を「登場人物」と呼びません。この人々は、実際の男性・女性であり、現代のみなさんや私と同じような人間なのです。

とにかく…、ちょっと話がそれましたね。

聖句を通して、私たちはこれらの偉大な神の民が、過去の神のご誠実さを思い出している場面を見ているのです。神は、昨日も今日も、永遠に変わることのないお方ではないですか？

使徒パウロが言っているのは、

「神はひとり子をお与えになった。私たちのために死ぬために、私たちにイエスを与えた」

もし神が、イエスを私たちにお与えになるのだったら、私たちにお与えにならないものが他にありますか？ヤコブは言っています。

すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来るのであって、光を造られた父から下るのです。父には移り変わりや、移り行く影はありません。（ヤコブ1章17節）

神は、その御心を変えません。良いことは、神のみわざです。神は、私たちの人生にあらゆる良いことをお与えになります。

みなさんのおっしゃることは分かります。どうか、お聞きください。

「ずっと祈っているけれど、祈っても神が応えてくださらなかった」

いいでしょう。みなさん、神がそれに応えてくださっていたなら、事態はもっと悪くなっていたかもしれないとお気づきでしょうか？私たちは、神が祈りに応えてくださったことを感謝しますが、それ以上にもっと、私たちは神に、その祈りに応えてくださらなかったことを感謝すべきだと思いますよ。

あ～、ありがたいことに、自分が祈ってきたことや、長年の祈りのリストを振り返ると、自分が祈る内容のいくつかを見ては、「ああ、神よ。本当にありがとうございます。もし、あなたがこの祈りに応えてくださっていたら、大変なことになりました！この祈りに応えてくださらなかったことに感謝します」

多くの場合、自分が祈った祈りは、神が応えてくださった祈りとはまったく比べものになりません。はるかに、ずっと良かった。ほかに適切な言葉が見つかりません。これは実際、祈りが私たちを変える3つ目の方法につながっています。祈ること、その行為の結果として来る”平安”がともないます。

先週、話しましたね？

私たちが祈る時、神がお造りになったエンドルフィン・セロトニンのホルモン物質や、ドーパミンが身体にあふれるのです。そして、私たちの心や思考、身体全体が落ち着いて、リラックスするのです。だから祈りに時間を費やすと、祈り始めた時のみなさんと、祈り終えた時のみなさんは違っているのです。祈りという行為がみなさんを変える。たとえ、みなさんの状況が変わっていなくてもです。これは、木曜日の夜の『詩篇』の学びを通して目のあたりにしていることです。

「詩篇」の詩人は、かなり頻繁に、はじめ、神に泣き叫んでいます。危険な状況で、敵が自分を殺そうと、潰そうと探している。悲しみは大変深く、自分の中で不安が大きくなっている。「詩篇」の最初の12節から15節を読むと、大変落ち込みます。

そして突如として、ある個所に来ると、神に泣き叫んでいる詩人が、神に大声で賛美を捧げる祈りに変わります。なにが変わったのでしょうか？状況は変わっていません。

「なにが変わったのか？」 「詩人が変わったのです」

彼が神に泣き叫び、神が彼の叫び声をお聞きになったからです。それがすべてを変えるのです。心と思考が変わるのです。「イザヤ書26章3節」に、

志の堅固な者を、あなたは全き平安のうちに守られます。その人があなたに信頼しているからです。

(イザヤ26章3節)

これが、まさにパウロが今日の聖句で言っていることだとお気づきでしょうか？こんなふうに言い換えさせてください。なにも思い煩わず、あらゆることを祈り、どんなことにも感謝をする。

いつも、なにか神に感謝することがあるのです。家のキッチンに額が掛けてあって、こう書いてあります。

『いつだって、いつだって、いつだって、神に感謝することがある』

私は、あたりまえのように思っているほんの些細なことでも、神に感謝します。本当に小さなことでも。取るに足りないことでも。あたりまえのように思っているようなことを。

神様、私の指をありがとうございます。

素晴らしいから。携帯メールができるのです。両手の親指をありがとうございます。

すべてのことを神に感謝をすると、何が起こるのか？それをすると、平安がみなさんにやって来ます。しかも、みなさんの思考や心を平安に保つだけでなく、実際、それ以上にみなさんの周りに守備が築かれるのです。

私の心と思考の周りの護衛を想像します。これが、パウロの言っていることで、「この平安が、守ってくれます」

この守備が、みなさんの護衛がどんなものかは分かりませんが、私の護衛には、みなさん、手を出さない方が良いですよ。彼らは大変危険な、私の国の者たちです。だから彼らは…、分かりました。話がそれすぎましたね。

しかし、それが本当に神のされることで、この警護隊を配置して、私たちの心と思考を完全な平安にしてくれるのです。

また、それ以上に興味深いのが、超越しているのです。

その意味を説明します。私たちの思考回路を超越するのです。私たちの心と思考を守る平安で。

言い換えれば、私たちの周りの出来事は、神の平安と相反していて、この世が与えることは、イエスが与えると言った平安ではありません。この世が平安として示すことは、大丈夫と言いながらも、日常のあらゆることに左右されるものです。「大丈夫。すべてうまくいくから」と。

聞いてください。もし、物事がうまく運んでいるときにだけ私が平安を感じたなら、私には、毎日4秒ほどしか平安がないでしょう。それで終わり。寝ている時が最高です。それは、イエスが与える平安ではありません。ここでパウロが言っている平安ではありません。

これは、私たちの理解をはるかに超えた、頭上を越える平安です。まっすぐ心に届き、落ち着きを与え、定着させる平安で、たとえ私たちには理解できないとしても、です。これって、「箴言」の有名な聖句ではないですか？私たちが覚えて賛美する聖句。

心を尽くして主に抛り頼め。自分の悟りにたよるな。あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。（箴言3章5節から6節）

神に従い、神を呼び求め、神に泣き叫び、すべてを神にゆだねること。すべての思い、不安、問題を大小に関わらず神にゆだねる。

こういうことです。みなさんの嘆願リストを差し出す。なにかの申請書を出すように、ゆだねる。

「これを提出します」と。神の約束がなにかご存じですか？「主はあなたの道をまっすぐにされる」。ほかの訳では、こうあります。「主はあなたに道筋を示される」

「箴言」のこの部分では、約束がなにか？のすべてはとらえられていないと思います。もっとこういうことです。主は、それをまっすぐにされる。主はあなたの道をまっすぐにする。でも、この「ピリピ人への手紙

4章6節から7節」は、同じ意味であり、条件付きの約束であり、3つの必要条件に基づくのです。それらが、「箴言3章5節から6節」であり、

- ①あなたの行く所どこにおいても、主を認める。
- ②心を尽くして主を信頼する。
- ③自分の悟りにたよらない。

これらの3つが正しく行われるなら、神が、私たちの心に与えてくださるもの、それは、神がこの平安を与え、道筋をまっすぐにされます。「わたしにまかせろ！」と。

神にゆだねたのなら、取り戻さない。そんなことをすれば、どうなるか分かりますね。

祈って、「神よ、これをどうすればいいのでしょうか？」「あれはどうすればいいのでしょうか？」「これをあなたにゆだねます」と言いながら、私たちは自分に取り戻してしまい、ふたたび悩み始めるのです。そしてまた、「主よ。お返しします。主にゆだねます」と言い、5分後、またしても「主よ。すみません。また取り戻してしまいました」「また、あれこれ考えてしまって、悩み続けています」となる。

神はおっしゃっています。「わたしにゆだねたら、ここから離れなさい」と。「わたしがなすのだから、離れなさい。そうすれば、わたしの方法ですることができるのだ。わたしが、あなたに道筋を示し、あなたがメチャクチャにしたこの問題を、わたしにしかできない方法で、まっすぐにするのだ」

はい。もうメチャクチャです。ときおり、あまりに物事がメチャクチャで、びっくりしませんか？その理由は、ほかでもなく、私たちが主にゆだねないからです。

ここで私たちは、「主よ。これは不可能です」と言うと、主がこうおっしゃるのが想像できます。

「さあ、そろそろ良いだろう。不可能なんだろう？あなたに可能だったなら、わたしの出番はないからね。わたしは不可能をなす神である。あなたにもう手立てがないこの状況で、自分には不可能だと認識しない限り、まだ自分でなんとかしようとするだろう。そうすると、わたしにゆだねない。あなたはまだ自分の悟りにたよって、自分自身の思いと力に、まだたよっているから。聞きなさい。わたしは、ここで待っているよ」

どれくらいかかるか分かりません。人によっては長くかかる人もいます。でも、あなたがやっとう限界に達して、両手をあげて、もうお手上げになってから主の元に行って、「主よ、わたしには分かりません」と言えば、「よし！」となります。

「主よ、そうすればいいかわかりません」「よし！わたしがしよう」と。

「主よ、これは最悪です」

「知っているよ。もう、わたしがしていいかい？わたしのところに持って来なさい。わたしに降参しないか。自分でコントロールしようとするのをあきらめないか？」

私たちの罪の性質は、自分でコントロールしようとするものです。自分がコントロールしたいでしょう？さあ、正直になりましょうよ。私たちにコントロールできない将来の未知の出来事を、私たちはもっとも心配しませんか？そのことを心配しませんか？

先のことになればなるほど、さらに心配で不安になりませんか？ 私たちには分からないこと、私たちにはコントロールできないことに対して、私たちは不安になります。

ここで別のことがあります。私たちが理解するために密接に関係していて、心の平安をはるかに超える、に関連します。

パウロが、“不安”の原語に使っている言葉は、実際に2つのギリシャ語を組み合わせた言葉です。ひとつめの言葉は、“避ける、離れる、分離する”という語で、ふたつめの言葉は、“思い”という語です。つまり、“不安”という言葉の意味は、“裂かれた思い”、“離され、分離された思い”。平安はなく、引き裂かれた思いです。

別の言い方をすると、不安になる・心配するというのは、文字通り、分離した思い、裂かれた思い、もしくは二心です。二心。「ヤコブの手紙1章5節から8節」の通り。お読みします。

あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。(5節)

ただし、少しも疑わずに、信じて願いなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。(6節)

そういう人は、主から何かをいただけるとってはなりません。(7節)

そういうのは、二心のある人で、その歩む道のすべてに安定を欠いた人です。(8節)

(ヤコブの手紙1章5～8節)

これは興味深い描写です。引き裂かれて、行ったり来たりすること。「分からない」とか、「大丈夫だ」とか、「でも。。。」とか。疑いがある、恐れがある、心配になって、不安になって、行ったり来たりしつづけるのです。揺れ動く海の波のようなのです。不安定で、二心で、揺れ動く。

ここで個人的な話をするをお許してください。分かってくさると思いますが、私は心配する達人です。心配において資格を持つほど。みなさん、イエスの名のもとに、それを知っていただきたいのです。(笑)自分が学んでいる最中である、難しい課題のひとつ。いまだに、それを学んでいます。

私自身の心配は、“まったくなにも達成しない”ということ。

主の御心であれば、来週、私たちは「マタイの福音書6章」を学びます。

イエスがおっしゃいました。

あなたがたのうちだれが、心配したからといって、自分のいのちを少しでも延ばすことができますか。

(マタイ6章27節)

言い換えると、「心配して、なにかを達成できると思うのか？」

ある人が言ったのが、「心配はロッキングチェアのようなものだ。前後に揺れ続けるだけで、どこへも到着しない」分かりやすくないですか？

心配すると、前後に揺れ動く。「どうしたらいいのかわからない。」「何をすべきかわからない。。。」「これってマズい。。。」「これは最悪。。。」「大変だ。。。」

心配は、なにももたらさないだけではなく、私たちが心配していることの大半が、実際には、ほとんど起こらないのです。

私は1995年のことを忘れられません。自分の祈りの記録を書いていて、リストがありました。当時、商売をしていたのですが、年末に、その一冊を締めくくる時に、一年を振り返りながら、自分で覚えておくために、あることを紙に書きました。

1995年の一年間に、95個の心配事があったのです。ちょっと減らして書いたリストで、本当はもっとあったのです。でも95個にしたんです。95年に。賢いでしょ？95個の心配のうち、いくつが実際に起こったと思いますか？ゼロ(0)！！なにもなし！！なにもなし！！

34番目の心配事では、眠れず、心配しすぎて病んだのに、まったく起こらなかったのです！！

だまされた気分ですよ。こんなに心配して投資してきたというのに、なにも起こらないなんて、冗談でしょう？

神が私に対してされるのが、まだたくさんあるとお分かりですね。95個の心配事のうち、ひとつも起こらなかったのです！！

Joseph Goewey / ジョゼフ・ゴーユイの興味深い研究があります。Goewey / ゴーユイという名前が好きです。”心配がゴーウェイ = Go away/去る” (笑) 彼の名前は、ジョゼフ・ゴーユイ博士。彼は、まったく起こらなかった想像上の災難が、どのくらいあるのかを調べました。

研究の中で、対象者たちに長期間にわたる心配事を書き留めてもらい、そのうちの、実際には起こらなかった想像上の不幸を確認すると、対象者たちが心配したことのうち、85%が一度も起こっていないのが分かった。85%ですよ。

では、残りの15%が起こったのか？対象者の79%が、彼らが考えたよりも対処できる範囲であったことが分かり、もしくはその困難というのは、学ぶ価値のある経験であったことが分かった。これが意味することは？

結論として、心配事の97%は恐れから来るものであり、誇張と誤解によって、自分を痛めつけているのです。

さらには先ほど言ったように、みなさんの中の心配性の方、ご自分でお分かりですね？私の心にかかった男性・女性たち。(笑) 97%という数字に、すっきりとしませんよね。なぜなら、みなさんの頭の中にあるのは、「また、3%あるじゃないか！」(笑) 頼みますよ。話し合いませんか？！

また、みなさんは、「マタイの福音書6章34節」に、すっきりしていない。主の御心であれば、来週、学びをしますが、イエスがおっしゃったのは、

だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります。(マタイ6章34節)

私は、最初の部分が好きです。「明日のための心配は無用」「分かりました。でもなぜ明日、また別の心配が来るとおっしゃるのですか？突如、私は大丈夫と思って心配無用となっているのに、主は、明日は別の心配が来るとおっしゃるから、今度は明日のことを心配してしまうんです」

よろしい。では、来週の学びで、その答えを教えましょう。（笑）

これを言えば、サタンをほめることになるのは分かっていますが、恐れと不安の霊というのが、サタンが私たちの思考に種を植える時、まさにサタンが狙っているものです。彼は私たちの心を引き裂き、違う方向へと引き離したいのです。そうして、彼は私たちを苦しめ、痛めつけたいのです。

BUT GOD / しかし、神は、私たちに恐れと不安の霊をお与えになりません。神がお与えになるのは、愛の力、健全な心、二心や引き裂く心ではなく、苦しめたり痛めつける心ではありません。

「どのように？」

「お～」「”信仰によって”」

信仰とは、恐れと不安の正反対のものです。ある方が、適切にそれを表現しました。『信仰という錨（イカリ）なしに生きるなら、不安という大海に溺れてしまう』私たちは、ふらふらと揺れさまようのです。そして不安定になり、二心になり、心が離れ、不安になり、傷つく。

ここで質問です。”どうやって、恐れを信仰に置き換えるのか”

可能なのですよ。でも、どうやって？！

「ローマ人への手紙10章17節」です。

実に、信仰は聞くことにより、しかもキリストの言葉を聞くことによって始まるのです。

（ローマ10章17節 新共同訳）

ご辛抱ください。これを聞き逃さないでください。神は、私たちの祈りを聞かれ、私たちは、神の御言葉において、神の返事を聞く。そうすると、恐れや不安が、信仰によって恐れと不安の逆に入れ替わるのです。

祈りとは、自分だけが話すのではなく、対話です。その意味を説明しましょう。祈りとは、単純に神に対して話しかけることです。それが祈りのすべてです。

以前、お話ししましたが、悲しいことに、私たちは祈りを複雑にしています。敵は祈りを混乱させるために、計画を立ててきました。なぜなら、敵が祈りを混乱させれば、クリスチャンを祈らなくさせられるからです。するとサタンが勝利する。それが彼の最終目的です。サタンは、祈りが決め手だと分かっているのです。

もし、突然いまの祈りが混乱させられたら、”天にましますわれらの父よ～～～”。しかし、これは、ただの手本です。私たちに祈り方を教えるための。祈りというのは、、、こういうふうに説明させてください。

ペテロが水の上を歩いた時に、主から目を離してしまったとたん、彼は沈み始めます。そのとき、彼は3語で祈ります。大変シンプルです。

「Lord Save Me (3語) / 主よ、助けてください」

もしイエスが、「ペテロ！祈り方を教えてください？そんな祈り方ではない。あなたはわたしの学びをやり直さなさい。わたしは天地創造の主で、海やすべてを創造した。あなたが溺れかかっている（ブクブクブク…）この湖も」

ペテロは、「”天にましますわれらの父よ”と言える時間がありません。主よ助けてください！！（ブクブクブク…）」

神が3語の祈りに応えてくださるのが嬉しくないですか？言葉にしない祈りに応えてくださるのが、嬉しいと思いませんか？”涙の祈り”は？言葉にならない祈りですよ。ただ涙があふれ、むせび、うめき、主に泣き叫ぶ。神はそれに応えてくださいます。

しかし、私たちが祈る時、神を呼び求め、泣き叫ぶ時、私たちが一方的に話して終わるべきではありません。このたとえが馬鹿げているのをお許してください。でも、これで締めくくります。

私が聞いた、これの最高のたとえは「電話」です。むかしはこういうふうに使いました（受話器を耳に当てて）。ダイヤルを回したのを覚えていますか？若者のみなさんはご心配なく。すぐに話を戻しますから。（笑）

たとえに携帯電話を使いましょう。マイクロフォンが祈りで、イヤホンが応えてくださる神の御言葉です。対話なのです。だから祈る時、「主よ、主よ、主よ。これをお願いします。あれをお願いします。主よ、主よ、主よ」となれば、みなさん、想像してみてください。

私がみなさんに電話をして、ただ一方的にしゃべったとしたら？「やあ、JDだよ！ボブ、元気かい？」ボブという名前が好きなのです。「やあ、ボブ。どう、元気にしてる？ボブ」「また会えたね。ボブ」「君のことが知りたいよ。ボブ。「さあ、オーケイ。アーメン」

ボブは、こんなふうに（手を振って）、「お～い。私もちょっとは言いたいよ～」

ときおり考えるのが、「神は、どう感じておられるのでしょうか？」ということ。私たちが祈る時、私たちは神に話します。神は、私たちに話し返されます。神は、私たちに語られます。おもに御言葉をとおして語られます。そのときに信仰が生まれ、信仰が生まれると恐れを押し出すのです。信仰と恐れは共存できません。

「詩篇56編3節から4節」で締めくくります。

恐れのある日に、私は、あなたに信頼します。（3節）

神にあって、私はみことばを、ほめたたえます。私は神に信頼し、何も恐れません。肉なる者が、私に何をなしえましょう。（詩篇56篇3～4節）

みなさん、分かりましたか？こんなふうに考えてください。ここでダビデが言っていたのは、「恐れを感じる時に、主を信頼する。主と主の御言葉を信頼する時、私は恐れぬから。」

なにが起こったんだ？

”そう、私は恐れている。しかし、神と神の御言葉に信頼を置く。私が聞いた御言葉が信仰をもたらし、もはや私は何事も恐れず、不安になったり、心配したり、悩んだりしなくなる。”

こう変わるのです。心配になったら、不安を感じたら、神に信頼を置き、神を呼び求め、神に祈る。そうしたら、神は応えてくださる。それが、信仰の来るところです。それが、恐れや不安が去る時なのです。

それが、”どうやって?”の答えです。

祈りましょう。

天のお父さま。ありがとうございます。主よ。感謝します。

祈りは、あなたを認識し、あなたを呼び求め、あなたに思いをゆだねるために、あなたが私たちにくださったものであることを学びました。すると、あなたは私たちの心と思考を完全な平安に保ってくださいます。あなたが私たちを落ち着かせ、まっすぐにして、安定させてくださるのです。

主よ。私は今日ここにいて、この領域で本当に葛藤している人のために祈ります。私も同様です。主よ。どうかあなたが、彼らの望みを新たにし、彼らの心を励ましてください。

主よ。ありがとうございます。

イエスの名のもとに。

アーメン。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」

(ヘブル4章7節)

メッセージ by JD Farag 牧師

カルバリーチャペルカネオへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/> Calvary Chapel

Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 Satoshi Suzuki 2019.04.24